

米国における営利大学の展開と地域アクレディテーションの機能

The Role of Regional Accreditation in the Development of For-Profit Universities in the United States

森 利枝

MORI Rie

1. はじめに	3
1.1 営利大学の特徴	3
1.2 営利大学の擡頭にかかわる高等教育批判	4
2. アクレディテーションと営利大学	5
2.1 地域アクレディテーションにおける「地域」の分割	5
2.2 営利大学の全国展開	7
2.3 営利大学の展開と NCA	9
3. 地域アクレディテーションによる営利大学の展開の支持	9
3.1 地域アクレディテーションと営利大学の親和性	9
3.2 営利大学のアクレディテーションが与える示唆	10
4. おわりに—今後の課題	11
ABSTRACT	13

米国における営利大学の展開と地域アクレディテーションの機能

森 利枝*

1. はじめに

いわゆる営利大学(for-profit universities/institutions)の登場と展開は、アメリカの高等教育界においては必ずしも新しい現象ではない。アメリカ連邦教育省の教育統計局(National Center for Educational Statistics: NCES)が提供している2003年版の総合中等後教育データシステム(Integrated Postsecondary Education Data System: IPEDS)によれば、2002年の調査時にアメリカに存在する営利大学のうち、学士以上の学位を授与している機関が地域アクレディテーションを受けた最も古い例は1977年にさかのぼる。また、アメリカ最大の営利大学であり、同時にアメリカ最大規模の大学でもあるUniversity of Phoenix(UOP; フェニックス大学)も、1976年にアリゾナ州フェニックス設立され、地域アクレディテーションを受けたのは1978年のことである。

本稿では、アメリカ国内におけるこの営利大学に対する、地域アクレディテーション団体によるメンバーシップの認定、すなわち適格認定(accreditation)の状況に着目し、営利大学の展開において個別の地域アクレディテーション団体が果たしている役割を検討することを目的とする。そのためにもまず1章でアメリカの営利大学に関してその環境を整理して提示することを試みる。

1.1 営利大学の特徴

アメリカの高等教育機関について論じるとき、またとりわけ営利大学のような、伝統的な高等教育機関とは異なる形態で運営されている機関をあつかうとき、そこでいう「高等教育機関」の定義は一様ではない。アメリカでは教育に関する第一義的な責任を負っている州が、高等教育機関の設置の条件についても管轄している¹。したがって「アメリカの高等教育機関」を一義的に定義する

ことは困難である。また営利大学には、教育活動によって授業料収入から営業利益をあげることを目的として設置された大学であり、多くの場合株式会社が設立母体となっているという強い傾向があるものの、その定義はさらに曖昧であるといわれている。

そこで本稿ではアメリカにおける営利大学の展開と地域アクレディテーションとの関係を考察する上で、「高等教育機関」の範囲を、一般に支持されている指標として考えられる地域アクレディテーションを受けた機関に限定して論じることとする。したがってここでいう営利大学とは、大学を経営することによって営業利益を上げることを目的としている大学ではあるが、一般にディプロマ・ミルとされている、十分な教育を行わないかあるいは教育を全く行わないまま学位を売買する仕組みとは異なるものである。営利大学とはいってもアメリカの正統的な高等教育機関の連盟への加盟が認められている高等教育機関が本稿における論考の対象であり、いわゆるディプロマ・ミルはここでは考慮しないことに注意されたい。

しかし先に述べたように、営利大学である高等教育機関と、営利大学ではない高等教育機関の境界もまた曖昧である。したがって本稿では先述したIPEDSに拠り、教育統計センターが営利大学(for-profit/proprietary)として分類している機関をここでも営利大学として扱うこととする²。このようにして、地域アクレディテーション団体のメンバーシップをもつという条件を前提にIPEDSのデータを見ると、2002年の時点でアメリカ50州内およびワシントンDCにおいては50の機関が、学士以上の学位を授与する営利大学として分類されていることがわかる。ではその営利大学とはどのような機関なのであろうか。

アメリカにおける営利大学に関して、コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジのアーサー・レ

* 大学評価・学位授与機構学位審査研究部 助教授

ヴィンはその成功の背景にある要因のひとつとして「学生の特性的変化」を挙げている。すなわち、アメリカにおいては25歳以上で職業ないし家庭を持った「非伝統的學生」が継続教育を求めて高等教育に學生として参入、あるいは再参入するケースが増加し、またその参入の形態もフルタイムではなくパートタイムの學生として就学するというケースが増えている。このような新たなタイプの學生が大学に求めるものは、何を措いても利便性であるとレヴィンは指摘する。そして、かれらは大学に対して必要な教育以外のもの、すなわち「野球チームや心理相談、宗教行事など」は求めておらず、利便性ととも「サービスの良さ、質の高さ、コストパフォーマンス」を重視するという。そしてこのような、従来とは異なるニーズを効率よく吸い上げて、それに対応した教育プログラムを用意している大学の典型的な例が営利大学であるUOPであるとしている(Levine, 2001)。

ここでレヴィンが指摘しているような、「無駄」を省いた、教育システムとしての効率性の高さや、あるいは労働市場におけるニーズとのレリバンスの高さは、UOPのカリキュラム編成に典型的、象徴的に見て取ることができる。2005年末の時点でアメリカ国内37州に68のキャンパスを展開するUOPでは、全キャンパスにおけるカリキュラムの統一をその特徴のひとつとしている³。UOPの経営母体である株式会社アポロ・グループの創始者であり会長でもあるジョン・スパーリングと、UOPの学長であるロバート・タッカーの共著による*For-Profit Higher Education*では、営利大学を経営、運営する立場から従来型の大学を以下のように批判している。

伝統的大学では、カリキュラム開発は個々の教員の手にゆだねられている。大学レベル、学部レベルないしは学科レベルのカリキュラム委員会は、それが存在する場合には、使われる教科書を承認し、また参考文献リストを提案することができる。しかし、学科がいかに教えられるべきか、學生に求められることは何か、学習の成果(learning outcome)はいかにあるべきかということ、ほぼつねに個々の教員の自由裁量にゆだねられ、それによって評価される。質の維持という観点からみれば、このようなシ

ステムでは本来必要な諸構成要素を欠いているといえる。(Sperling and Tucker, 1997, p.93)

このような論拠にたつて、同書ではUOPの利点のひとつとして、包括的かつ一貫性のあるカリキュラム開発の方法を開発していることを挙げ、さらに「カリキュラムの共通性」として、実質的にUOPにおけるすべてのカリキュラムにおいて、労働市場において役に立つ共通した技能、能力、態度、有用性が得られるとしている。「(UOPの)課程とカリキュラムは、學生の職業上のニーズに応えるのみならず、大学の二次的な顧客、すなわち學生の雇用者である企業のニーズにも応えるように開発されている」(Sperling and Tucker, 1997, p.93)。また、UOPで提供される科目のカリキュラムは、すべてのキャンパスにおいて共通していることも知られている。

1.2 営利大学の擡頭にかかわる高等教育批判

上記のように、労働市場のニーズに対応して成長してきた営利大学に関しては、社会人學生の高等教育へのアクセスを拡大したという評価のある一方で、アメリカ国内にあってもその高等教育機関としての正統性を疑問視する論調は堅固であるといえる。アメリカ国内において、地域アクレディテーションを受けていることが正統な高等教育機関のメルクマールとして一般に受け入れられているということは前述したとおりであるが、地域アクレディテーションを受けた営利大学であっても常に正統な高等教育機関として全幅の信頼を受けるわけではなく、むしろ伝統的な大学の側からは、その伝統的の大学世界のあり方を支えてきた高等教育の価値体系を忽せにするものとして、依然として一種の危機感をもって観察されているというべきであろう。前項で見たUOPの特徴のひとつであるカリキュラムの共通性も、学問の自由に抵触するものであるという批判がなされている。また、営利大学のカリキュラムが労働市場のニーズに即した有効性を意識して編成されていることについても、それがあまりに重要視されるために、伝統的の大学社会の側からは疑問視されるに至っている。たとえばニューヨーク市立大学教授のスタンリー・アロノウイツは、企業型の大学(corporate universities)について、「新機軸の企

業型大学の擡頭は、教員のためになるものではなく、また学生のためになるものでもなく、ましてや国家のためになるものでもない」と批判して、現代的企業のモデルに沿って高等教育機関を構築することについて次のように述べている。

その結果、多くの大学が将来のための訓練を押し付けて、それを教育と称しているのである。学生をある文化に対して社会化しようとするとき、この国は規範となるような一定の国民文化というものを欠いている。あるいはそれでもなくとも、個別の授業科目の進路を示しうるような教育哲学を欠いた状態では、全体としての学術のシステムは市場の論理に巻き込まれてしまう。この市場の論理というものは、学生が大学を卒業するときには、職業に就く準備ができていることを求めるものである。(Aronowitz, 2000, p.158)

このアロノウイツの主張は、営利を目的とした企業型の大学の擡頭は、単にそれらの大学が市場からの要請にこたえて出現したという一対一の単純な図式ではなく、その背景には従来型の高等教育機関の側において、その教育のありかたが変容していること指摘できるというものである。同様の主張は視点を変えて、ハーバード大学のデレック・ボックによってもなされている。ボックは、「投資家にいわせれば、アメリカのほかのサービスにおいて実現されているように、営利目的での高等教育が良い成果を生み出せないと考える理由がない」と指摘して、営利大学の擡頭を許した伝統的高等教育機関の側の事情の一片を以下のように述べている。

(従来型の)大学はその名声を高めることに力を注いでいるが、そのための研究偏重には広く批判の声が上がっている(・・・中略・・・)。高等教育について深い見識を持つ観察者にとって、自らの大学が考えうる限りの最良の教育を行い、教育プログラムの改善のために不断的な努力を系統的に行っていると主張する研究大学がほとんどないということを否定する者はいないといってよい。(Bok, 2003, p.160)

ここまで見てきたように、営利大学における教育はその効率性の重視という方針にひとつの大きな特徴があるといえる。この教育における効率性の重視という方針によって、営利大学が教育において従来型の大学が十分に果たしていないとされるサービスの機能を果たしていると指摘することもできよう。そのいっぽうで、高等教育によって収益を上げるというそもそもの発想は、従来型の高等教育がこれまで拠って立ってきた文化的規範とは相克するものであるといってよいであろう。では、従来型の高等教育が醸成してきた価値観と営利大学を支える価値観がオーバーラップする、適格認定というモーメントにおいて、どのような事態が出来しているのか、第2章以降で見ていくことにしたい。

2. アクレディテーションと営利大学

アメリカにおける高等教育の適格認定の仕組みは、教育に関して連邦政府に限られた権力しかなく、州に「全般的な」権力を認めている憲法下において、「新たな社会問題を解決するために自発的に新たな社会システムを構築する」というやり方で生まれたものであると、アリゾナ大学名誉教授のフレッド・ハークルロードは指摘している。

(Harclerod, 1980, p.1) このうち、特に地域アクレディテーションがアメリカにおいて正統的な大学のメルクマールのひとつとして機能していることは冒頭で述べたとおりであるが、営利大学の中にもこの地域アクレディテーション団体による適格認定を受ける機関が出てきている。

2.1 地域アクレディテーションにおける「地域」の分割

図1は、アメリカにおける地域アクレディテーション団体が担当する地理上の6つの地域を示したものである。ここに見られるように、ニューイングランド協会(New England Association of Schools and Colleges: NEASC)、中部協会(Middle State Association of Colleges and Schools: MSA)、南部協会(Southern Association of Schools and Colleges: SACS)、北中部協会(North Central Association of Colleges and Schools: NCA)、北西部協会(Northwest Commission on Colleges and Universities: NWCCU)、西部協会(Western Associa-

tion of Schools and Colleges: WASC)の6団体がアメリカ全土を分割してその地域内に本部をおく高等教育機関の適格認定を行っている。おのおのの団体が担当する具体的な州については表1にまとめて示した。ただし、WASCは四年制以上の機関を担当するWASC Sr.と、短期高等教育機関を担

当するWASC Jr.に分割して運営されており、運営上は同じ地域の別種の高等教育機関を適格認定する二つの主体があると、少なくともWASCの側では認識しているとされる。また同様の分担状況は、学士以上の学位を授与する機関を担当するCIHEと、準学士以下を授与する機関を担当する

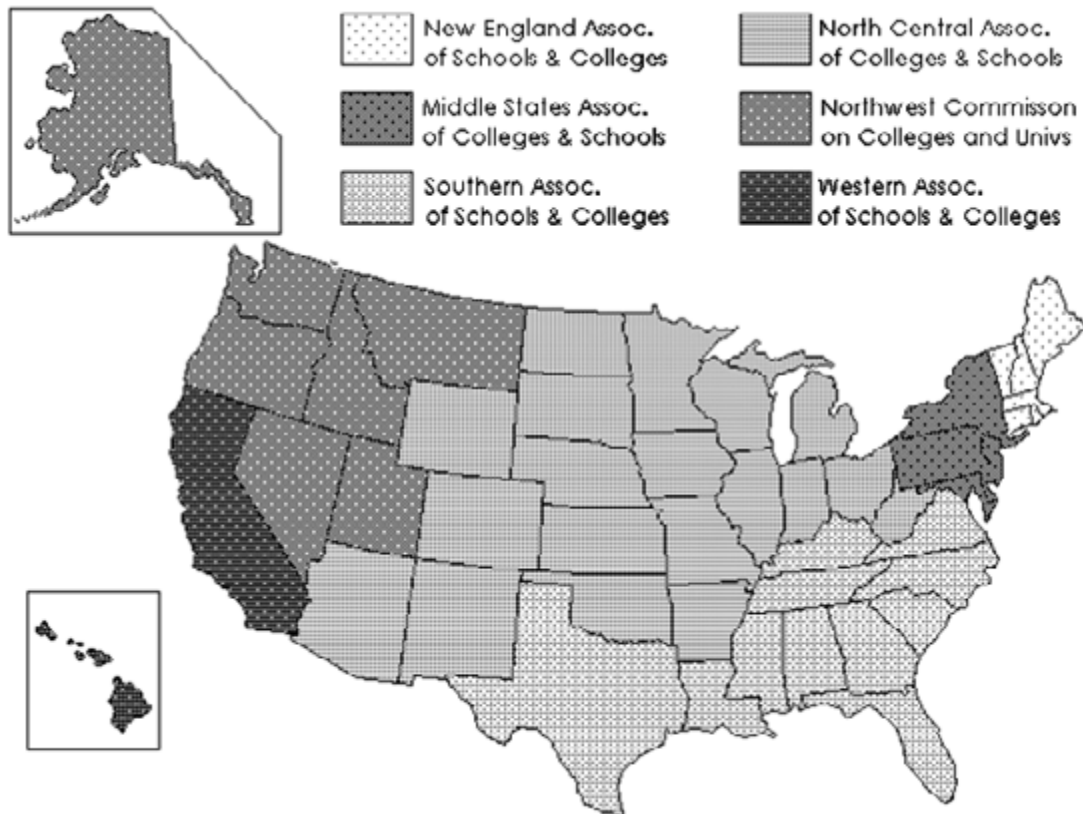


図1 アクレディテーション団体と地域

表1 各地域団体担当州

地域アクレディテーション団体	担当州	校数 (概数)
NEASC (6州)	コネチカット ニュー・ハンプシャー マサチューセッツ メイン ロード・アイランド ヴァーモント	270
MSA (5州 + DC)	デラウェア メリーランド ニュー・ジャージー ニュー・ヨーク ペンシルヴァニア ワシントン DC	500
SACS (11州)	アラバマ フロリダ ジョージア ケンタッキー ルイジアナ ミシシッピ ノース・カロライナ サウス・カロライナ テネシー テキサス ヴァージニア	800
NCA (19州)	アリゾナ アーカンソー コロラド イリノイ インディアナ アイオワ カンザス ミシガン ミネソタ ミズーリ ネブラスカ ニュー・メキシコ ノース・ダコタ オハイオ オクラホマ サウス・ダコタ ウェスト・ヴァージニア ウィスコンシン ワイオミング	1015
NWCCU (7州)	アラスカ アイダホ モンタナ ネヴァダ オレゴン ユタ ワシントン	155
WASC (2州)	カリフォルニア ハワイ	330

CTCIに分割しているNEASCにも見られる。さらに、図1および表1に示されているのはアメリカ国内の50州およびワシントンDCであるが、これらに加えてプエルト・リコにある高等教育機関がアメリカ本土のアクレディテーション団体に適格認定を求める場合はMSAが担当することとされている。

図1からはNCAが担当する地域の広さが知れるが、同時にNCAが適格認定を行ってメンバーシップを認めている高等教育機関の数も1000校を超えており、その校数は全地域において最も多い。学士未満の資格を授与している機関を含めて、各地域において適格認定されている高等教育機関の2005年中旬における概数は、表1に示したとおりである。

2.2 営利大学の全国展開

前述したように、地域アクレディテーションは、原則として各アクレディテーション団体の担当地域内に本部のある機関を対象として適格認定を行っている⁴。これは、ひとつの機関がほんらいのアクレディテーション地域の外にブランチ・キャンパス（分校）を設置するときにも、それらブランチ・キャンパスの適格は、本部のある地域のアクレディテーション団体が責任を持つということである。これは換言すれば、個々のアクレディテーション団体は、みずからの担当地域内に設置される他地域の機関のブランチ・キャンパスでの

教育に関して、一切のかかわりを持たない、あるいは持てないことを意味する。

このようなシステムを背景にして、アメリカにおける営利大学の展開は、比較的少数の高等教育機関が、本部が存在するアクレディテーション地域の外に多くのブランチ・キャンパスを設立することによって成立している。冒頭に述べたIPEDS（2003年版）に営利大学として分類されている高等教育機関のうち、学士以上のレベルの学位を授与している50の高等教育機関の分布について表2に示した。ここに見られるように学士以上の学位を授与する営利大学42.0%（21校）が、NCAの適格認定を受けていることにここでは注目したい。

先にも述べたように本稿ではこの営利大学のブランチ・キャンパスの展開に着目する。これは、アメリカの大学のブランチ・キャンパスが、それじたいで学位を授与するに足る量の教育を提供しており、学位授与の点ではひとつの高等教育機関と同等の働きをするからである。このような前提の下で、営利大学の196のキャンパスに関して、その所在地と、本部が適格認定を受けている地域アクレディテーション団体の関係を調べると、アメリカ全土への営利大学の展開において、特定の地域アクレディテーション団体が果たしている役割を見て取ることができる。

表3は、各アクレディテーション団体が担当している州内に存在して、学士以上の学位を授与している営利大学のキャンパスと、そのキャンパス

表2 アクレディテーション団体別認定営利大学数（学士以上）

アクレディテーション団体	NCA	MSA	SACS	NEASC	WASC	NWCCU	計
営利大学数（校）	21	14	9	3	2	1	50
占有率（%）	42.0	28.0	18.0	6.0	4.0	2.0	100.0

表3 営利大学キャンパスの所在地とアクレディテーション団体（学士以上）

		アクレディテーション団体構成比（%）						（所在実数）
		NCA	MSA	SACS	NEASC	WASC	NWCCU	
キャンパス所在地	NCA 地域	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	(69)
	MSA 地域	26.8	73.2	0.0	0.0	0.0	0.0	(41)
	SACS 地域	46.3	24.1	29.6	0.0	0.0	0.0	(54)
	NEASC 地域	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	(5)
	WASC 地域	62.5	18.8	6.3	0.0	12.5	0.0	(16)
	NWCCU 地域	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	(11)
占有率（%）		64.8	23.5	8.7	1.5	1.0	0.5	100.0
（認定実数）		(127)	(46)	(17)	(3)	(2)	(1)	(196)

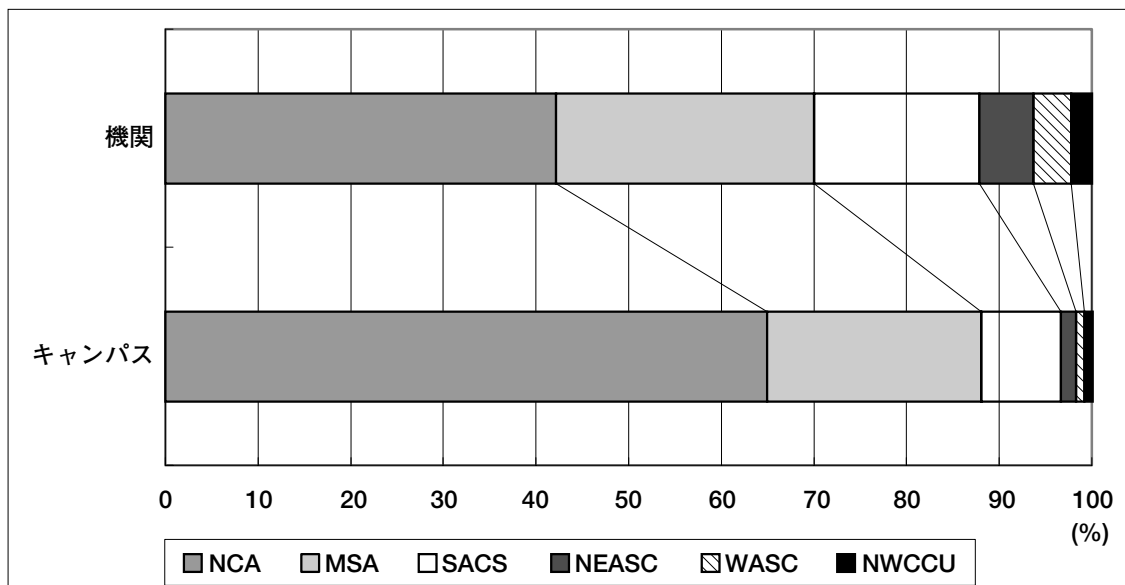


図2 営利大学の機関とキャンパスの展開 (学士以上)

を持っている機関の本部に適格認定を与えているアクレディテーション団体の関係を示したものである⁵。ここに見られるように、ほんらいNCAが担当している地域に存在する営利大学のキャンパスは、69キャンパスすべてがNCAによって適格認定された機関のキャンパスである。ところがSACSが担当する地域には営利大学のキャンパスは54あるが、SACSそれじたいが適格認定した機関のキャンパスは全体の29.6%を占める16キャンパスに過ぎず、残りのキャンパスは他の地域アクレディテーション団体、すなわちNCAが認定する機関のキャンパス(46.3%, 25キャンパス)と、MSAが適格認定した機関のキャンパス(24.1%, 13キャンパス)が、SACSの地域内へと進出していることがわかる。またMSAの担当地域にあっては、MSAじたいが適格認定した機関のキャンパスは全体の73.2%(30キャンパス)で、残りの26.8%(11キャンパス)がNCAによって適格認定された機関のブランチ・キャンパスである。WASCの担当地域では、WASCじたいの適格認定によるキャンパスが全体の12.5%(2キャンパス)で、それ以外はNCAによって適格認定された10キャンパス(62.5%), MSAによって適格認定された3キャンパス(18.8%), SACSによって適格認定された1キャンパス(6.3%)によって占められている。NWCCUの担当地域にいたっては、NWCCUが自前で認定した営利大学は1キャンパ

ス(9.1%)しかなく、実に90.9%にあたる10キャンパスがNCAから適格認定を受けている。

さらに、表中に示した占有率からは、アメリカ全土(プエルト・リコを含む)に展開している営利大学のキャンパス196キャンパスのうち、64.8%がNCAによって適格認定された機関に属するキャンパスであり、以下MSAによるものが23.5%, SACSによるものが8.7%, WASCによるものが1.0%, NWCCUによるものが0.5%であることがわかる。

図2には、表2に示した学士以上の学位を取得できる営利大学を機関別に見たときのアクレディテーション団体別の分布と、表3に示した、それら営利大学のキャンパスごとのアクレディテーション団体別の分布を比較対照のためにまとめて示した。この図からは、NCAが営利大学の半数近くを適格認定しており、それらNCAに適格認定された営利大学がブランチ・キャンパスを展開することによってキャンパスの数で言うとアメリカ全土の営利大学の約三分の二程度のシェアを占めていることがわかる。すなわちNCAの担当地域に存在してNCAに適格認定されている営利大学が、そもそも大きい営利大学本体のシェアを、さらに超えたキャンパス展開を行っているといえる。

このように見てくると、アメリカにおける営利

大学の数量的な展開を適格認定の面から支えているのが、NCAというひとつの地域アクレディテーション団体であるということが言えるであろう。

2.3 営利大学の展開と NCA

先にも述べたように、アメリカの地域アクレディテーションは、国内の機関に関しては原則として6つの地域のいずれか、機関の本部を置いた地域を担当する団体が行うこととされている。前項までで見たとおり、この方策が、ひとつの地域アクレディテーション団体であるNCAによって適格認定された高等教育機関の、キャンパスの全国展開を支える要素になっているということが知れる。じっさいには、全国展開しているキャンパスの多くが、アリゾナ州に本拠地を置くUOPと、イリノイ州に本拠地を置くデブライ大学(DeVry University)のブランチ・キャンパスである。今回の調査対象となった学士以上の学位を授与しているブランチ・キャンパス196キャンパスには、UOPのものが54キャンパス(27.6%)と、デブライ大学のものが21キャンパス(10.7%)⁶含まれている。このUOPとデブライ大学の2機関がNCAの担当地域であるアリゾナ州とイリノイ州に本部を置いていることが、NCAをして、営利大学のキャンパスの全国展開にもっとも寄与している地域アクレディテーション団体にしているということもできる。

先にも見たように、NCAはすべての地域アクレディテーション団体のなかで最も多くの州を担当している。地理的な範囲も6地域の中で一番広く、これまでにメンバーとなっている機関数も全地域を通じて最も多い。NCAが持つこれらの特徴は、営利大学の適格認定を容易にしているとは必ずしもいえないが、現在の各地域アクレディテーション団体における適格認定の実績を見る限り、NCAが、営利団体にとって最も適格認定を得やすい団体であるということは推測できるであろう。

ニューヨーク州立大学オルバニー校のケヴィン・キンザーは、NCAのアクレディテーション基準を、全地域アクレディテーション機関において「最もアイテム数が少なく、最も短い」ものであると指摘して、このNCAのアクレディテー

ション基準の特徴が、地域アクレディテーションを得た「正統な」高等教育機関であることを目指す営利大学をNCAの地域内にひきつけているとしている。さらに、このためにNCAが、営利大学の、いわば全国アクレディテーション機関として機能しているとも指摘している(Kinser, 2004)。ここでは基準の数量的な側面にしか触れないが、たとえば2006年1月の時点で、NCAのアクレディテーション基準は5項目152アイテムからなっており、たとえば172アイテムを11項目に分けて定めているNEASCの基準や、あるいは167アイテムを9項目に分けて定めているNWCCUのアクレディテーション基準と比較すると概括的であると考えられる。

3. 地域アクレディテーションによる営利大学の展開の支持

ここまで見てきたように、アメリカにおける営利大学の全国規模での展開の背景には、地域アクレディテーション団体のひとつに過ぎないNCAによる積極的な適格認定が見られる。これは換言すれば、アメリカにおいて「正統な」営利大学を展開するためには、機関の本部をNCAの担当地域内に置くという戦略が成り立つということにもなる。NCAによる営利大学の展開の支持とも呼べるような事態が出来している背景には、地域アクレディテーションのどのような特性があるのだろうか。

3.1 地域アクレディテーションと営利大学の親和性

本稿の1.1および1.2で概観したように、営利大学の擡頭はアメリカの高等教育において否定しえないトレンドであるが、同時に伝統的高等教育の側に属する一部の陣営からは歓迎されざるべき事態として捉えられている。では、営利大学が高等教育機関として好ましいありかたではないという認識がある程度共有されながらも、アメリカにおいて正統的な高等教育機関とそうでない高等教育機関を弁別する最大の分別機能を持つ地域アクレディテーションが、その営利大学を正統な高等教育機関として参入させるにいたった、その構造的な特徴は奈辺に見ることができるのであろうか。

アメリカの高等教育の地域アクレディテーシ

ンの特徴として、高等教育機関の最低基準を示して、それを超える質の高さを問題にしないということにしばしば言及される。これは、一部の専門アクレディテーションが卓越性を問うものであることとは大きく異なっている。この、地域アクレディテーションの特徴は、アメリカにおける高等教育機関の多様性を担保するものであるが、同時に一種の脆弱性としても顕在化することが指摘できる。たとえばテネシー州高等教育委員会のウィリアム・トラウトは、1979年に発表した論文の中で、地域アクレディテーション団体の認定基準と、高等教育機関の質についてどのような関連があるかという問題意識のもと、すべての地域アクレディテーション団体の認証基準といくつかの先行研究を踏まえたうえで次のように結論している。すなわち「入手できる先行研究を見る限り、(地域)アクレディテーション団体の基準が高等教育機関の質の高さを保障しているという主張を十分に支持するものはない」。またトラウトは同じ論文の中で、全ての地域アクレディテーション団体が、機関の適格認定に際して共通して重視する要素が機関の財務状況であると指摘している (Trout, 1979)。そしてこの財務状況の健全さこそが、効率性と営利を追求する営利大学が有する最大の特徴のひとつである。したがって、高等教育機関としての質の卓越性を問わないという原則のもと、単純化されかつ財務状況を重視する基準によって適格認定を行う地域アクレディテーション団体があれば、その団体の適格認定の方針は営利大学の運営方針と高い親和性を持つことができる。これは換言すれば、地域アクレディテーションの基準は、各地域アクレディテーション団体が特に営利大学を排除するといった方針を持たない限り、営利大学に正統的な高等教育機関としての地位を与えやすい構造になっていることができよう。

また、地域アクレディテーションがあらゆる形態の高等教育機関を一種類の基準で適格認定しているという事実にも、注目すべきであろう。このような、地域アクレディテーション団体の基準の単一性に関して、連邦議員の中には遠隔教育や営利大学など非伝統的な高等教育機関を適格認定するにあたって、地域アクレディテーション団体は伝統的な高等教育機関のための基準とは異なる基

準を用意すべきだという主張が根強くある。しかしアクレディテーション団体の側は伝統的高等教育機関も非伝統的高等教育機関も同じ基準で適格認定できるしそうすべきであるという主張を曲げていない⁷。このようなアクレディテーション団体の主張は、いわゆる非伝統的高等教育機関が擡頭してきた1970年代当時からすでに唱導されている。たとえばかつてSACSのスタッフであったグローバー・アンドリュースは、現在あるアクレディテーション団体の連合体の高等教育アクレディテーション評議会 (Council for Higher Education Accreditation: CHEA) の前身である Council for Post Secondary Accreditation: COPA が主導した調査の一環として行った研究のなかで、非伝統的高等教育機関のアクレディテーションについてこう述べている。「・非伝統的高等教育は、高等教育の内部分裂としてではなく、あたらな誘意性の発現ととらえるべきである。・機関アクレディテーションは、すべての中等後教育を包摂し、過程と成果の両方を機関評価の視野に入れた単一の方式によってなされなければならない」(Andrews, 1978)。ここにみられるような原則によって、営利大学には伝統的高等教育機関と同様の適格認定を受ける道を開かれており、ここでもやはり地域アクレディテーションの基準が緩やかであるなら、営利大学が地域アクレディテーションを受けやすい構造が見て取れる。このような地域アクレディテーションに属する諸特性と、NCAの基準に見られる概括性がいまって、NCAをして、学士以上の学位を授与する営利大学全体の、64%に及ぶキャンパスの適格認定を担うアクレディテーション団体としての機能を負わせていると解釈することもできる。

3.2 営利大学のアクレディテーションが与える示唆

以上、IPEDSに登録された大学情報の分析を通じて、学士以上の学位を授与する営利大学の展開において、NCAというひとつの地域アクレディテーション団体が、結果的にはいわば全国規模のアクレディテーション団体のような機能を果たしていることを概観してきた。この背景には、そもそも地域アクレディテーションという制度が本来持っている特性と、営利団体の特性との親和性が

高いと考えられること、また、NCAの基準そのものが、他の地域アクレディテーション団体の基準よりも概括的である可能性も示唆した。

ここで指摘したように、一つの地域アクレディテーション団体が営利大学の全国展開を支えているという事態は、アメリカの地域アクレディテーションの原則とは乖離するものである。この点をひとつの問題点として指摘しておきたい。

これとは別に、アメリカの営利大学と地域アクレディテーションの関係に関する分析からは、わが国の高等教育機関の認証評価制度と、株式会社立大学の問題の先行きを見通すうえでのインプリケーションを得ることが期待できる。すなわち、アメリカの営利大学とNCAの関連からは、収益を挙げうる機構としての営利大学のキャンパスを広い範囲に展開する上で、特定の地域アクレディテーション団体の担当地域に本拠地を置き、適格認定を受けた上で全国に展開するという戦略が有効である可能性が指摘される。この場合、複数のアクレディテーション団体の中から、適格認定を受けることが比較的容易であると思われる機関の担当地域を本拠地の場所として選択するということが合理的な判断であると考えられる。このように、機関の本拠地の設置地域の選択による地域アクレディテーション団体の選択が可能になっている状況と、ひとつの地域（一国）に複数の、文部科学大臣に認証された高等教育機関の評価機関が存在し、高等教育機関がひとつの評価機関を選択して適格認定を受けるという図式とのアナロジーが見て取れる。ここで注意すべきことは、地域アクレディテーションを受けることによって営利大学の威信が高まる可能性よりもむしろ、営利大学の全国展開を支えていることが明らかになることによって、NCAという地域アクレディテーション団体の威信に瑕疵が生じる可能性であるというべきであろう⁸。

4. おわりに—今後の課題

本稿ではここまで、アメリカにおける営利大学のブランチ・キャンパスを通じた全国展開と、それを支える地域アクレディテーション団体の適格認定について考察してきた。今後の課題としては、まず、本稿では先行研究のほかには項目とアイテムの数からしか検討しなかったNCAのアクレ

ディテーション基準の概括性について、内容面から他の地域アクレディテーション団体の基準と比較考量することが挙げられる。また、営利大学の展開の状況に州によるブランチ・キャンパスの設置認可の問題をあわせて考えることも必要である。じっさいに、IPEDSのデータからはデラウェア州、メイン州、ミシシッピ州、モンタナ州、ノースダコタ州、ロード・アイランド州、ウェスト・ヴァージニア州、ウィスコンシン州の各州に、営利大学の本部もブランチ・キャンパスも存在していないことが知れる。アメリカにおいて、州政府は州内における高等教育機関の設置に責任を負っており、それは他州に本部のある高等教育機関のブランチ・キャンパスであっても同様である。これら8州における高等教育機関の設置に関わる定めを他の諸州のものと比較してその政策の特徴を抽出することが今後の課題として考えられる。また、今回の分析は学士以上の学位を出す営利大学ないしそのキャンパスのみを対象としたが、準学士以下の資格しか付与しない機関やキャンパスをあわせて考察して、学士以上の学位を得る機会を提供するケースのみを対象とした場合との傾向の違いを考察することによって新たな知見が得られることも期待できるであろう。

【注】

- 1 合衆国憲法修正第10条。なお連邦も高等教育法により高等教育機関の定義を提示しているが、実際の設置認可の業務は州の権限の許にある。
- 2 IPEDSが提供している用語集では、営利大学（private for-profit institution）を「私立機関（private institution）であり、管理者である個人や組織が、想定されるリスクの対価として賃金、地代などの実費以外の報酬を受け取りうるもの」と定義している。
- 3 Website, University of Phoenix, www.phoenix.edu as of December, 2005 による。
- 4 アメリカの地域アクレディテーション団体が外国に本部を置く高等教育機関からの要請により適格認定を行っている場合もある。この場合は外国の機関が任意の団体に適格認定の申請を行っている。
- 5 本表の提示の方式は Kinser, K., 2004による。

The design of the presentation of Table 3 appeared in Kinser K., 2004.

- 6 ニューヨーク州ロングアイランドに設置された DeVry Institute of Technology を含む。DeVry University の系列をなすこのキャンパスでは学士の学位が授与されている。
- 7 ただし、州によるキャンパスの設置認可は、地域ア krediteーション団体に見られるような「機関の種別を問わない単一の基準」を以って行われているとは限らない。州による認可に関して UOP の学長であったホルヘ・アルヴァは次のように述べている。「フェニックス大学のような（営利大学にとっての）認定（accreditation）の問題は、それが営利企業の所有であるという理由によって、（非営利大学とは）別種の規制の下に置かれることである」と述べている（Alva, 2000）。
- 8 また、高等教育コンサルタントであるリチャード・ラッチが、「営利大学はア krediteーションを営業上の目標としている」と指摘していることも注目し得る。営利大学は「どれほどの財源と人材を投入してア krediteーション基準をちょうど満たすことができるかを計算して」（p.5）いるのであり、「資源を適切に使えばその直接の結果としてア krediteーション基準を満たすことができるということを証拠立てて見せている」というのである（Ruch, 2001, p141）。すなわち営利大学にとってのア krediteーション基準は、非営利大学にとっては教学上の最低水準を満たしていることを指示するのとは異なり、経営組織の健全性の試金石としての機能を持ちうるということも、我が国において参照しうる指摘であると思われる。

【参考文献】

- Alva, J., "For-Profit and Non-Profit Higher Education" (presentation at the annual conference of the Council for Higher education Accreditation, Washington D. C., 26 January 2000) cited in Ruch, 2001.
- American Council on Education, *Accredited Institutions of Postsecondary Education, 2002-2003*, 2003
- Andrews, Grover J., *Assessing Nontraditional Education: Summary Report*, Council for Post Secondary Accreditation, pp-18-19, 1978, cited in Harclerod, 1980.
- Arnowitz, Stanley, *The Knowledge Factory: Dismantling the Corporate University and Creating True Higher Learning*, Beacon Press, 2000
- Bok, Derek, *Universities in the Marketplace: The Commercialization of Higher Education*, Princeton UP, 2003
- Integrated Postsecondary Education Data System: IPEDS, National Center for Educational Statistics, 2003
- Harclerod, Fred F., *Accreditation: History, Process and Problems*, AAHE-ERIC/Higher Education Research Report No.6, 1980
- Kinser, K., *What is For-Profit Higher Education?* Presentation at 29th Conference of American Society of Higher Education, 2004
- Levine, Arthur "Privatization in Higher Education" in *Privatizing Education: Can the school marketplace deliver freedom choice, efficiency, equity, and social cohesion?*, ed. by Henry M. Levin, Westview Press, pp. 133-148, 2001.
- Sperling, John and Tucker, Robert W., *For-Profit Higher Education: Developing a World-Class Workforce*, Transaction Publishers, 1997
- Ruch, R. S., *Higher Ed, Inc.: The Rise of the For-Profit University*, Johns Hopkins University Press, 2001
- Troutt, William E., "Regional Accreditation Evaluate Criteria and Quality Assurance" in *Journal of Higher Education*, Vol. 50. No.2, Ohio State University Press, pp. 199-210, 1979

[ABSTRACT]

The Role of Regional Accreditation in the Development of For-Profit Universities in the United States

MORI Rie *

This article focuses on the development of the for-profit universities/institutions of higher education in the United States. In the discussion, the function of the regional accreditation system for enhancing and/or allowing for-profit universities to increase branch campuses outside of their own regions is determined. The article discusses mainly for-profit universities/institutions and campuses that confer baccalaureate degrees or higher, based on the classification of institutions by NCES-IPEDS. It also spotlights one regional accreditation body out of eight: the North Central Association of Colleges and Schools, as a possible driving force for the growth of for-profit universities/institutions throughout the US. It discusses the complexity and simplicity of standards of accreditation of individual regional accreditation bodies and points out the affinity between a) the characteristics of the accreditation standards of regional accreditation bodies and b) the nature of for-profit universities/institutions.

The article concludes that the essential nature of regional accreditation provides room for nontraditional institutions of higher education such as for-profit institutions. This nature of regional accreditation, combined with simple standards of accreditation, may result in a generous accreditation policy not only for traditional institutions of higher education but also for-profit universities. From the discussion, it is revealed that it is not the standard of accreditation itself but the operation of it which deters the arbitrary multiplication of such universities/institutions. The article suggests that a more detailed consideration of the higher education-policy of individual states is required along with determination of the geographical distribution of the campuses of for-profit universities/institutions.

* Associate Professor, Faculty for the Assessment and Research of Degrees, National Institution for Academic Degrees and University Evaluation